

研究室報告

- ① 今年度は、小路口聡教授（国内特別研究）が研究に専念するために講義等を担当しなかった。
- ② 今年度は新入生歓迎行事として四月二日（日）に「新入生研修旅行」を行い、江戸東京博物館、および上野国立博物館を見学した。東洋思想文化学科一年生のガイダンスとして、実り多い見学会となり、また学生相互あるいは教員との交流を深めることができた。関係者各位には厚く御礼申し上げます。
- ③ 二〇一九年九月八日から十四日まで実施された海外文化研修（中国四川省）には、白井順准教授、沼田一郎教授、山口しのぶ教授の三名の引率のもと、十六名の学生が参加した。中国思想、仏教思想、および中国文化に関わる施設の見学や、四川大学中華文化研究院、日新学堂での交流会を行い、充実した研修となった。関係者各位には厚く御礼申し上げます。
- ④ 本年度、大学院（インド哲学仏教学専攻）の公開研究発表会を春学期（六月二六日）と秋学期（十一月二七日）に開催した。春学期は以下の四つの発表があった。（春学期）新入生研究計画・シスコ・マシュー、崇昊、研究発表…松宏明（D1）「中世ジャイナ教の瞑想法について—Subhacandra著 *Jñānānuśāsana*を中心に—」、伊藤頼人（D3）「マハーバーラタ」におけるダルマ神の課す試練、板敷真純（D3）「初期真宗における真実報土の理解—特に了海の『他力信心問書』を中心に—」、藤井明（D3）「タントラ文献におけるマントラの暗号化とその法則」、また秋学期は、プラマハバンジュット（D3）「悟りと律との関係の考察」、村田良子（M2）*[Patanjaliyogasāstranivāna]*における *prāna* 概念の基礎的研究」、藤森進（M2）「カウティリヤ実利論に引用されるアーチャーリヤたちの思考範囲と傾向」、村田啓輔（M2）「法華経」思想の継承—「度諸仏境界智光嚴経」と「法華経」の関連について—の四発表であった。また両発表大会に、学外講師をお招きし御講演演戴いた。各大会の講師名、所属、講演テーマは以下の通りである。
- ⑤ 七月二十七日（土）開催の白山中国学会において、大学院生（中国哲学専攻）の研究報告・研究発表を行った。博士前期課程の研究報告は、【M1】鄭丹「謝靈運の山水詩について」、李華偉「四書改錯」と「駁四書改錯」の比較分析【M2】劉雨佳「余華『死者たちの七日間』の物語論」、楊若琳「張愛玲が愛した上海」、蔡佩吟（輔仁大学碩士課程、交換留學生）「劉向の權謀觀——『新序』『說苑』を通して」【D1】

劉心奕「羅洪先における主静思想の展開」〔D3〕余祺琪「羅近溪の良知思想に関する一考察」、水野あゆ「葉聖陶『稻草人』(かかし) 改稿をめぐる」、その後、基調講演として、中村聡先生(玉川大学教授)「『ことば』は『言』か『道』か——ログスを中国哲学で考える——」の御講演をいただいた。なお、二〇二〇年三月二十一日(土)に開催する白山中国学会においても、大学院生の研究報告・修士論文発表を行う予定である。

⑥ 十二月十七日(火) 四限(インド・仏教の美術B)の時間に、シッタールト・シン先生(在日インド大使館ヴィヴェーカーナンダ文化センター長、バナールス・ヒンドゥー大学教授)を招聘し、「紛争の解決と平和の構築——ブッダの教えに学ぶ」という演題で、文学部トップリーダー講演会(第8回)を開催した。百名ほどの学生が参加し、質疑応答も活発に行われた。

⑦ 本年度のティーチングアシスタントは、黒田祐介、佐藤智博、志村敦弘、谷釜智洋、藤井明、村田啓輔(五〇音順)の各氏が担当した。

⑧ 本年度の卒業論文の提出者は、第I部東洋思想文化学科では一〇四名、第II部東洋思想文化学科では二二名であった。大学院の修士論文提出者はインド哲学仏教学専攻では三名、中国哲学専攻では二名であった。本年度の優秀論文に対する褒賞は左記の通りである。

【校友会奨学基金】

学 部 新井里奈(I部)、山口哲人(II部)

大学院 (インド哲学仏教学専攻) 村田啓輔

(中国哲学専攻) 楊若琳

【勸学奨学基金】

学 部 佐藤瑛(I部)、飯島織江(II部)

【田村芳朗奨学基金】

学 部 柏本智史(II部)

二〇一九年度業績（二〇一九年一月～十二月）

伊吹 敦

○研究活動

〈論文〉

「近代における傳統佛教評價の問題―日本・中國における大乘非佛説論・起信論―中國撰述説への對應を中心に」（『東洋思想文化』六、二〇一九年三月、一四二～一〇九頁）

「道臻による「開法」と最澄への影響」（坂本廣博博士喜壽記念論文集『仏教の心と文化』山喜房佛書林、二〇一九年三月、一一三八～一一二一頁）

「佛教は哲學なりや宗教なりや―近代日本における佛教の宗教化と禪宗・眞宗の二元的理解の誕生」（『國際禪研究』三、二〇一九年七月、一九五～二三四頁）

「神會による「如來禪」の創唱と宗密の改變」（『印度学仏教学研究』六八、二〇一九年二月、二九〇～二九七頁）

〈翻訳〉

「定源（王招国）著『金沙論』研究―北宗禪文献の新たな出現」（單訳、『國際禪研究』三、二〇一九年七月、一一九～一二一頁）

〈その他〉

「世界大戦終結後の中国と禪（上） 要説・中国禪思想史

五五）（『禪文化』二五二、二〇一九年四月、二二九～一四〇頁）
「世界大戦終結後の中国と禪（中之上） 要説・中国禪思想史五六」（『禪文化』二五三、二〇一九年七月、九六～一〇六頁）
「世界大戦終結後の中国と禪（中之下） 要説・中国禪思想史五七」（『禪文化』二五四、二〇一九年十月、二二九～一三九頁）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本佛教学会（理事）／日・韓・中国際仏教学術大会（幹事・編集委員）／東アジア仏教研究会（役員）／日本印度学仏教学会（会員）／仏教史学会（会員）／早稲田大学東洋哲学学会（会員）

学会発表等

「七世紀後半における中國北地の思想動向―『金剛三昧經』に見る初期禪宗と三階教の接合とその意味」（二〇一九年五月二十六日、國際禪研究プロジェクト主催、國際シンポジウム「初期禪宗史研究の最前線」東洋大学、白山キャンパス、六号館六三一七教室）
「禪宗における「如來禪」の起源と展開」（二〇一九年九月七日、日本印度学仏教学会第七〇回學術大会、佛敎大学、紫野キャンパス、一号館三〇五・三〇六教室）
「師資血脈傳」の成立と變化、並びに他の神會の著作との關係について」（二〇一九年十一月九日、仏教史学会第七〇回學術大会、花園大学、拈華館二〇二教室）

「李華撰『故左溪大師碑』に見る知識人の佛教理解」(二〇一九年十二月七日、国際禅研究プロジェクト主催、国際シンポジウム「初期禅宗史研討会」東洋大学、白山キャンパス、第三会議室)

〔研究プロジェクトへの参加〕

科学研究費助成金「海外の研究者との連携による中国・日本における禅思想の形成と受容に関する研究」(基盤研究(A) 17H00904) 研究代表者

○教育活動

〔学内担当科目〕

学部・東洋思想文化演習・卒論指導⑥(Ⅰ部、通年)

中国仏教史A(Ⅰ・Ⅱ部、春学期)

中国仏教史B(Ⅰ・Ⅱ部、秋学期)

仏教漢文A(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、春学期)

仏教漢文B(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋学期)

レポート・論文制作の技法(Ⅰ部、春学期)

東洋思想特講ⅡA(Ⅰ部、春学期)

東洋の身体論(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋学期) 一回担当

「回峰行に見る身体と心」(六月十九日)

近代化と東洋(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋学期) 一回担当

「近代における禅の再発見」胡適・鈴木大拙・和辻哲郎

(九月二日)

総合ⅧB1(校友会寄附講座、Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋

学期) 一回担当

「哲学館の後継者たちの活躍」境野黄洋、高嶋米峰など(十月十九日)

大学院・中国仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅳ(前期課程)

仏教学特殊研究Ⅲ・仏教学研究指導Ⅳ(後期課程)

○大学管理運営活動

文学研究科インド哲学仏教学専攻長、文学部内自己点検・評価委員会委員(東洋思想文化学科)・東洋大学東洋学研究所研究員・編集委員

○社会的活動

(公益財団法人) 中村元東方研究所兼任研究員

岩井 昌悟

○研究活動

〔共著〕

『釈尊および釈尊教団形成史年表』ならびに『釈尊の生涯に就いて配列した事績別原始仏教聖典総覧【一】』『【四】』釈尊伝研究会著(森章司(研究代表者)・金子芳夫・岩井昌悟・本澤綱夫・石井照彦) 中央学術研究所、二〇一九年十一月十六日

学会参加

国際井上円了学会第八回学術大会の司会(東洋大学)、二〇一九年九月五日

国際シンポジウム「国際的視野から見た円了哲学」の司会（井上円了研究センター主催）二〇一九年九月六日
所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会（会員）／日本宗教学会（会員）／日本
佛教学会（会員）／仏教思想学会（会員）／パトリ学仏教文
化学会（普通会员）、日本チベット学会（会員）／国際井上
円了学会（理事）

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学国際哲学研究センター（センター長・河本英夫「東洋
大学」）研究員

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・東洋思想文化演習⑤（Ⅰ部）

インド仏教史A・B（Ⅰ・Ⅱ部）

パトリ語A・B（Ⅰ部）

東洋思想文化への誘いA・B（Ⅰ部・Ⅱ部合同）

東洋芸術文化特講ⅣA（Ⅰ部）

レポート・論文制作の技法（Ⅰ部）

総合ⅣAⅠ（校友会寄附講座、Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、春

学期）二回担当

「日本をどう考えるのか―井上円了の忠と孝」（五月

十八日、五時限）

「井上円了の教育と仏教―教育は勸語に基づき、宗教

は仏教を取る」（六月二十二日、五時限）

東洋の身体論（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）一回担当

「仏教の身体論」（五月二十二日、七時限）

東洋大学・井上円了研究一回担当

「井上円了の釈迦」（五月十一日、四時限）

大学院・初期仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅲ（前期課程）

仏教学特殊研究Ⅳ・仏教学研究指導Ⅲ（後期課程）

○大学管理運営活動

第一部東洋思想文化学科学科長／井上円了研究センター運営委

員会委員／東洋大学東洋学研究所研究員・運営委員／東洋大

学国際哲学研究センター研究員

川崎 ミチコ

○研究活動

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

仏教学会（会員）・日本中国学会（会員）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・レポート・論文制作の技法（Ⅱ部）

中国文学講読A・B（Ⅰ部）

中国文献学A・B（Ⅰ部・Ⅱ部）

中国文学講読A・B（Ⅱ部）

漢文訓読法（Ⅰ部・Ⅱ部）

東洋芸術文化特講ⅢA

○大学管理運営活動

東洋大学図書館副館長（白山図書館担当）

東洋大学東洋学研究所研究員・東洋大学アジア文化研究所研究員

員

学生生活委員会委員（文学部）

坂井 多穂子

○研究活動

〈論文〉

「宋代文人の富貴観——龍涎香の愛好を中心に——」、『東洋思想文化』東洋大学東洋思想文化学科紀要 第六号、二〇一九年三月、一〜二七頁

「南宋の養鶴詩人——江湖詩人に至るまで——」、『江湖派研究』第四輯、江湖派研究会、二〇一九年七月、一三四〜一五一頁

〈訳注〉

「戴復古五律譯注」（Ⅳ）、『江湖派研究』第四輯、江湖派研究会

二〇一九年七月、担当一八八〜一九四頁

〈学術講演〉

「唐宋士大夫与『滑稽』——以白居易、梅尧臣和周紫芝为中心」、湖南理工学院（文学院・社科処・国際交流処）主催、

二〇一九年九月一七日

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本中国学会（大会委員会委員）／日本宋代文学学会（理事）

／白山中国学会（理事・会計委員）／中唐文学会（会員）／

中国文史研究会（会員）／日本杜甫学会（会員）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学 部・東洋思想文化演習ⅡA B（Ⅰ部）

中国文学講読A B（Ⅰ部）

レポート・論文制作の技法（春学期・Ⅰ部）

漢文訓読法（春学期・Ⅰ部）

中国学研究法B（Ⅰ部・Ⅱ部）

中国文学特講ⅡA B（Ⅰ部）

東洋の身体論（Ⅰ・Ⅱ部兼り入れ）一回担当

「中国文学と身体——纏足にみる女性観」〔四月二十四日、七時限〕

大学院・中国哲学研究指導Ⅰ（博士前期課程）

中国文学特論Ⅱ（博士前期課程）

中国哲学特殊研究Ⅳ（博士後期課程）

○大学管理運営活動

文学部カリキュラム検討委員会委員／文学部ホームページ委員

／東洋大学東洋学研究所研究員・同編集員／東洋大学アジア

文化研究所研究員

小路口 聡(国内特別研究中)

○研究活動

〈訳注〉

・「王畿「余氏家會籍題辭」訳注——陽明門下の講会活動記録を読む(四)——」、「東洋思想文化」「東洋思想文化」東洋大学文学部紀要第七二集(東洋思想文化学科学篇Ⅵ)、二〇一九年二月、一〜二八頁

・「鄒守益「会語」資料(龍華會語・惜陰申約・惜陰説) 訳注——陽明門下の会語記録を読む 其の三——」、「白山中国学」通巻二十五号、二〇一九年三月、一〜二二頁、*吉田公平、早坂俊廣、鶴成久章、伊香賀隆、播本崇史と共著。

〈その他〉

・「心は理を創造する——荒木見悟氏の「心即理」解釈の可能性——(「心創造理——荒木見悟教授「心即理」解釈の可能性(余祺祺訳)」、「中国哲学的豊富性再現——荒木見悟与中日儒学国際研讨会」予稿集、二〇一九年九月一四日
日儒学国際研讨会」予稿集、二〇一九年九月一四日
講演・シンポジウム・研究会)

・「王龍溪哲学の可能性について——「研究」と「学」の間で——」
二松學舎大學陽明学研究センター主催シンポジウム「王龍溪研究の現在」、二〇一九年三月八日、二松學舎大學 九段校 舎1号館二〇一教室
・「語り合う「良知」たち——王龍溪の良知心学を共働実学する——」、京都フォーラム・復幸実学共働学習会、二〇一九

年七月一六日、大阪駅前第3ビル二四階、樹福書院会議室)

・「心創造理——論荒木見悟先生「心即理」的解釋(心は理を創造する——荒木見悟氏の「心即理」解釋の可能性——)」、復旦大学哲学学院、復旦大学上海儒学院主办国際會議「中国哲学的豊富性再現——荒木見悟与中日儒学国際研讨会」、二〇一九年九月一四日〜一六日、中国上海、復旦大学光華樓 西主樓二四一〇室

・「過ちに気づくということ——陸王心学の改過論」、日本陽明学研究会(姚江の会)、中央区佃区民館六号室、二〇一九年 一二月一四日

〈学会活動〉

日本中国学会(会員)、白山中国学会(理事・「白山中国学」編集委員)、中国文史哲研究会(会員)、東洋古典學研究会(会員)
〈研究プロジェクトへの参加〉
科学研究費助成金「陽明門下の講学活動と「会語」資料に関する総合的研究」(研究種目基盤研究(B)、課題番号 17H02271)、*研究代表者

○教育活動

〈学内担当科目〉
学 部：国内特別研究につき免除。
大学院：中国哲学研究指導Ⅲ(博士前期課程)
中国哲学研究指導Ⅲ(博士後期課程)
○大学管理運営活動

国内特別研究につき免除。

白井 順

○研究活動

〈論文〉

「西村天囚の門人・岡山源六一その中国貴陽時代を中心に―」

『懐徳』第八七号、四六～五九頁、二〇一九年一月

懐徳堂教授吉田銳雄と蜀人查体仁《学庸俗話》、『儒藏論壇』第

十二輯、一四三～一六一頁、二〇一九年六月

〈学会活動〉所属学会

日本中国学会（会員）／日本道教学会（会員）／東方学会（会

員）／朝鮮学会（会員）／韓国思想史学会（委員）／白山中

国学会（理事）／日本儒教学会（会員）／日本思想史学会（会

員）／大阪市立大学中国学会（会員）／九州大学中国哲学研

究会（会員）／九州中国学会（会員）／阪神中哲談話会（会

員）／近現代東北アジア地域史研究会（会員）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部：海外文化研修（集中）

中国哲学特講 I A B（I 部）

中国哲学特講 I A B（II 部）

中国語 I A A B（II 部）

中国学概論（I 部・II 部、春学期）

東洋思想（I 部・II 部、秋学期）

東洋思想文化演習 I ⑨ A B / 中国哲学演習 I ⑨（I 部）

近代化と東洋（I・II 部乗り入れ、秋学期）一回担当

「東洋学と近代」（十月九日、七時限）

大学院：中国哲学演習 I A B（博士前期課程）

中国哲学研究指導 I V A B（博士前期課程）

中国哲学特殊研究 V A B（博士後期課程）

中国哲学研究指導 V A B（博士後期課程）

○大学管理運営活動

体育協議会委員／文学部外国語委員会委員／大学院図書館図書

選書担当／文学研究科内 F D 委員

沼田 一郎

○研究活動

〈シンポジウム等〉

・「ダルマ文献における司法論題の配置とその変遷」（共同研究

「ブラフマニズムとヒンドウイズム―南アジアの社会と宗教

の連続性と非連続性」第 6 回シンポジウム「古代・中世イン

ドの王権と宗教」東京大学、二〇一九年三月二四日）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本南アジア学会（会員・英文叢書委員会委員）／日本印度

学仏教学会（評議員・会員）／日本佛教学会（会員）／アジ

ア法学会（会員）／国際井上円了学会（会員）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・東洋思想文化演習（Ⅰ部）

サンスクリット語ⅠA B

インド思想特講ⅠA

インド古典思想概論A B

東洋思想文化演習（Ⅱ部）

野間 信幸

○研究活動

〈論文〉

〈その他〉

「山岡景行先生を偲ぶ」「東洋思想文化」第六号、二〇一九年二月二十八日、五七～五八頁

「オンライン大学講座MOOC（ムーク）について」「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」第一〇号、二〇一九年一月二十九日

「年間授業計画票の作成と配布」「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」第一八号、二〇一九年六月十一日

〈講演〉

「井上円了の見た世界——学祖井上円了が台湾で見たもの、考えたこと」〔円了没後一〇〇周年記念公演〕、二〇一九年六月

十五日、白山キャンパスE12教室

〈学外活動〉

所属学会ならびに役職

日本中国学会（会員）／日本台湾学会（学会賞選考委員）／

天理台湾学会（理事）／日本現代中国学会（会員）／白山中国学会（会長）／中国文芸研究会（会員）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・レポート・論文制作の技法③《春》（Ⅰ）

中国文学史（Ⅰ部・Ⅱ部）

中国文学演習Ⅰ（Ⅰ部）

中国文学特講Ⅰ（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）

総合ⅧB（校友会寄附講座、Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋季）一回担当

「円了の台湾巡講——南船北馬2（台湾巡講）」十月十五日

日（台風十九号で全学休業となり中止）

大学院・中国文学特論Ⅰ・中国哲学研究指導Ⅱ・中国語学研究

Ⅰ（前期課程）

中国哲学特殊研究Ⅰ・中国哲学研究指導Ⅰ（後期課程）

○大学管理運営活動

就職キャリア支援委員会委員・文学部キャリア・就職推進委員

会委員／東洋大学アジア文化研究所運営委員

○社会的活動

アジアセンター21（維持会員）

橋本 泰元

○研究活動

〈論文〉

「グルーリーナーナクの実践論」〔単著、『東洋学研究』第五六号、六七～八四頁、二〇一九年三月三一日〕

〈学会活動〉

〈所屬学会ならびに役職〉

日本印度学佛教学会（理事）／日本宗教学会（会員）／日本南アジア学会（会員）／日本佛教学会（会員）
研究プロジェクトへの参加

「南アジアにおける思想的・文化的融合の動態的研究―バクテイ思想を中心として―」（二〇一九年度井上円了記念研究助成
研究代表者）

「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」
（二〇一三年度科学研究費補助金「基盤研究（A）」研究代表

者・水野善文「東京外国語大学」連携研究者

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・レポート・論文制作の技法②（I部）
ヒンドゥー教概論A・B（I・II部）

ヒンディー語A・B（I部）

インド学仏教学演習③（I部）

東洋思想文化演習②（I部）

仏教の芸能（秋学期、コーディネート）（II部）

文学部伝統文化講座（IDB）「聲明公演」主催（十月

一九日）

大学院：インド哲学研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅲ（前期課程）

インド哲学特殊研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅱ（後期
課程）

〈学外担当科目〉

大正大学学部・ヒンディー語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（総合）

東京大学文学部・大学院人文社会系研究科：外国語（ヒンディー
語）

○大学管理運営活動

東洋思想文化学科第二部学科長／東洋大学東洋学研究所研究
員・運営委員／井上円了記念研究助成審査専門委員

○社会的活動

団体役員等

（特財）大法輪石原育英会評議員

水谷 香奈

○研究活動

〈論文〉

「平塚らいてうと仏教―浄土問題への対応とその思想的背景―」、『印度学仏教学研究』第六七卷第二号、日本印度学仏教学会、二〇一九年三月、六三三～六三九頁。

「平塚らいてうの思想―見性と母性に関する一考察―」、『東洋大学井上円了研究助成・大型研究特別支援助成 日本文化の背景となる仏教文化の研究（平成二十九～三十年度）研究報告書』、東洋大学東洋学研究所、二〇一九年三月、四九～七〇頁。

〈その他〉

車相輝（水谷香奈訳）「宗教儀式マニュアルと摩訶衍の禪旨」および同「伊吹敦教授の論評について」、『東アジア仏教学術論集』第七号、東洋大学東洋学研究所ほか、二〇一九年一月、二七三～二九五頁および三〇二～三〇五頁。

崔鉦植（水谷香奈訳）「高麗後期の看話禪の定着と非禪宗僧侶への拡散の様相」、『国際禅研究』第三号、東洋大学東洋学研究所国際禅研究プロジェクト、二〇一九年七月、七～三七頁。

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会（会員）／仏教思想学会（会員）／日本宗教学会（会員）／日本佛教学会（会員）／東アジア仏教研究会（会員）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・レポート・論文制作の技法②（春学期）

レポート・論文制作の技法⑤（春学期）

卒論指導A②（Ⅱ部、春学期）

卒論指導B②（Ⅱ部、秋学期）

東洋思想文化演習IA②（Ⅱ部、春学期）

東洋思想文化演習IB②（Ⅱ部、秋学期）

東洋思想文化演習IIA②（Ⅱ部、春学期）

東洋思想文化演習IIB②（Ⅱ部、秋学期）

東洋思想文化演習II②（Ⅱ部、通年）

日本仏教史A（Ⅰ部、春学期）

日本仏教史B（Ⅰ部、秋学期）

東洋の身体論（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、コーディネーター、春学期）二回担当

「はじめに」（四月十日、七時限）

「まとめ・試験」（七月二十四日、七時限）

近代化と東洋（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、コーディネーター、秋学期）三回担当

「はじめに」（九月二十五日、七時限）

「戦争と日本仏教」（十一月二十七日、七時限）

「まとめ・試験」（一月十五日、七時限）

○大学管理運営活動

東洋大学東洋学研究所研究員

目次

○研究活動

〈論文〉

「インドネシア、バリ島の寺院におけるシヴァ＝ブッダ観念の
表出―バリ・ヒンドゥー寺院に見られる仏教的要素を中心と
して」『東洋思想文化』第六号、八八―一〇八頁、二〇一九
年三月

〈基調講演〉“Balinese Culture and Tourism,” The 2nd Triatma
Mulya International Conference, organized by Triatma Mulya
University Bali Indonesia 2019, August 15, 2019, in Puri Saron
Hotel, Seminyak, Bali.

〈所属学会ならびに役職〉

日本印度学仏教学会（会員）／日本宗教学会（会員）／日本南
アジア学会（和文雑誌編集委員・会員）／日本佛教学会（会員）
／日本西蔵学会（会員）／密教図像学会（会員）／東海印度学
仏教学会（会員）

〈研究プロジェクトへの参加〉

科学研究費補助金（基盤研究C）「インドネシア、バリ・ヒン
ドゥー儀礼におけるインド宗教の受容と変容に関する研究」

（研究代表者）

〈調査活動〉

インドネシア、バリ島におけるヒンドゥー儀礼の実態調査
（二〇一九年八月八日～八月十八日、科研費による調査）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部：

東洋思想文化演習Ⅰ⑦A・B（Ⅰ部）

東洋思想文化演習Ⅰ③A・B（Ⅱ部）

東洋思想文化演習Ⅱ⑦A・B（Ⅰ部）

東洋思想文化演習Ⅱ③A・B（Ⅱ部）

卒論指導A・B⑦（Ⅰ部）

卒論指導A・B③（Ⅱ部）

インド・仏教の美術A・B（Ⅰ部）

インド・仏教の美術A・B（Ⅱ部）

チベット仏教のあゆみ（Ⅰ部） 春学期）

チベット仏教のあゆみ（Ⅱ部） 春学期）

宗教学ⅡA・B（Ⅰ部）

総合ⅢB、ⅣB「東洋大学井上円了哲学塾」（Ⅰ・Ⅱ
部乗り入れ）一回担当

「井上円了の見た世界」（十二月二日、三、四時限）

近代化と東洋（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋学期）一回担当

「近代化とチベット」（十月十六日、七時限）

総合ⅧBⅠ（校友会寄附講座）一回担当

「日本の近代化と東洋大学―井上円了の哲学と実践

―」（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）「哲学館からチベットへ―

明治の取経僧・河口慧海と能海寛」十一月十六日、

五時限) 一回担当

全学総合1A1「哲学への誘い」(I・II部乗り入れ)

一回担当

「バリ島の宗教における世界と自己」(五月十六日、五

時限)

大学院・インド仏教学研究IV A・B、仏教学研究指導II A・B (前

期課程)

仏教学特殊研究II A・B、仏教学研究指導II A・B (後

期課程)

○社会活動

〈公開講座〉

「円了の世界旅行」(二〇一九年度井上円了没後一〇〇周年記念

講座「井上円了の見た世界、第二回、二〇一九年六月二三日、

東洋大学白山キャンパス、一B一教室)

「井上円了と近代アジア」(円了没後二〇〇周年記念「円了デー」

講演会「今につながる円了哲学、二〇一九年十月二六日 東

洋大学125記念ホール)

「東南アジア美術の旅」(第一回〜第四回) (東洋大学エクステ

ンション講座A2、第一回二〇一九年十月一九日、第二回

一 一九九日、第三回一 一月十六日、第四回一 一月二三日、東

洋大学エクステンション課学習室)

○大学管理運営活動

東洋大学文学部グローバル推進化委員会委員長／東洋大学文学

部予算委員会委員／東洋大学東洋学研究所研究員／東洋大学

アジア文化研究所研究員

渡辺 章悟

○研究活動

〈論文〉

『Satpuruṣa考』『東洋思想文化』第6号、東洋大学文学部、

二〇一九年三月、一〜二六頁 (Left).

「日本の山岳信仰の独自性―立山信仰をめぐる―」『東洋学

研究』五六号、東洋大学附置東洋学研究所二〇一九年三月、

二七〜三四頁

「大乘仏教の説法者―ダルマバーナカ (Dharmabhāṅaka)」『禅

学研究所紀要』47号、愛知学院大学禅研究所、二〇一九年三

月、一〜三四頁

「曹洞宗で唱えられるダラニ經典―大悲心陀羅尼 第一回」『仏

教企画通信』五七号、二〇一九年九月一日、四〜五頁

「般若経と『中論』の縁起説」『印仏研究』第六八一号、

二〇一九年二月、一三九〜一四七頁

A Question Concerning the Title of the Prajñāpāramitā-hṛdaya

[sūtra]: Is the Prajñāpāramitā-hṛdaya[sūtra] a Sūtra that

Advocates Emptiness or a Dhāraṇī (Mantra)? Prof. Charles

Willemsen *Felicitation Volume*, the K. J. Somaiya Centre for

Buddhist Studies, Mumbai, 2018, pp.383-396.

〈著書〉

『般若経の思想』春秋社、二〇一九年二月、全三三九頁

〈学会発表〉

「大乘仏教の伝承者たち—bodhisattva, saṃpūṣa, dharmadhāraṇaka—」日本印度学仏教学会 第六九回学術大会、

東洋大学、平成三〇年九月一日（土）

〈その他〉

京極夏彦との対談「仏教と井上円了」「井上円了—「哲学する心」の軌跡とこれから」講談社、二〇一九年一〇月、二六—二九頁

「大乘仏教の菩薩とは」「仏教文化」第二〇〇号、東京国際仏教塾、二〇一九年一〇月一〇日

「千手経とは」（曹洞宗で唱えられるタラニ経典 第二回）『仏教企画通信』五八号、二〇一九年二月、三—四頁

〈講演・研究発表〉

「『般若心経』の系統—序文と空性表現を中心として」（第六四回国際東方学者会議での「『般若心経』を解体する—般若心経研究の最前線」をテーマとするシンポジウムの発表、於日本教育会館8階会議室）二〇一九年五月一八日

「般若経と『中論』の縁起説」（日本印仏学会第七〇回学術大会、於仏教大学）二〇一九年九月七日（土）

「仏典翻訳の意義—（公財）英訳大蔵経プロジェクトをめぐる」

黄檗勉強会、於目黒区海福寺、二〇一九年九月一〇日（火）

「『般若心経』の世界」このとりアカデミー主催、鴻巣市文化会館、二〇一九年九月一〇日（火）

「菩薩と第二の転法輪」駒澤大学仏教学会での講演、二〇一九年一月一八日（月）

「般若経の真理」武蔵野大学仏教文化研究所、二〇一九年二月七日（土）

〈学会活動〉

・所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会（理事・評議員・企画編集委員）／仏教思想学会（理事・評議員）／日本西蔵学会（委員）／（般財）

東方学会（地区委員・会員）／日本宗教学会（評議員）／日本佛教学会（会員）／（公財）東方研究会（兼任研究員）／

日本仏教心理学会（会員）／国際仏教学会 IABS（会員）・学会参加等

仏教思想学会第三四回学術大会、身延山大学、二〇一九年六月二九日（理事会・研究発表会の司会）

日本印度学仏教学会第六八回学術大会、仏教大学、二〇一九年九月七日—八日（二日間、理事会・研究発表）

〈研究プロジェクトの主宰及び参加〉

井上円了記念研究助成…東洋学研究所プロジェクト「初期大乘仏教の成立と展開—テキスト・ことば・思想—」研究代

表者

井上円了記念研究助成…東洋学研究所プロジェクト「東アジア

における仏教思想の成立と展開、並びにその意義の解明」(研究代表者 伊吹敦) 研究分担者

東洋大学国際哲学研究センター(センター長・河本英夫「東洋大学」第二ユニット「課題」・宗教の超克と調和に向けて)に所属し、仏教を中心とした多文化・多宗教共生の研究を行う。研究員、運営委員

「パウッダコーシヤ・仏教用語の『日英基準訳語集』構築に向けての総合的研究」文科省科学研究費「基盤研究(A)」(研究代表者・斎藤明「国際仏教学大学院大学」研究分担者)

○教育活動

〈学内担当科目〉

学 部：ブツダの思想とその展開 A・B (I・II部)

サンスクリット語 II A・B (I部)

大乘仏教の思想 I (I部、春学期)

東洋思想文化演習 I・II③ (I部)

東洋思想文化演習 I・II (II部)

文学部総合科目 I (I・II部共通)

・東洋思想文化への誘い A (I部・II部、春学期) 二

回担当

・東洋思想文化への誘い B (I部・II部、秋学期) 二

回担当

・宗教をめぐる諸問題 A・B (I・II部乗り入れ) 二

回担当

・総合Ⅷ A・B (校友会寄附講座、I・II部乗り入れ) 運営責任者ならびに六回の授業担当

大学院：大乘仏教研究 I・仏教学研究指導 I (博士前期課程)

仏教学特殊研究 I・仏教学研究指導 I (博士後期課程)

〈学外担当科目〉

大正大学大学院「MD仏教学特論 A・B」春学期・秋学期

○大学管理運営活動

東洋大学東洋学研究所(運営委員・研究所員) / 東洋大学国際

哲学研究センター(運営委員・研究員)

○その他の社会活動

(公財) 仏教伝道協会・英訳大蔵経編集委員会(委員)・仏教聖

典編集委員会(委員)・助成金審査委員会(委員) / (特財)

大法輪石原育英会奨学生選考委員会(委員) / (公財) 中村

元東洋思想文化賞審査委員会(審査員) / 東洋大学仏教会(会長)

二〇一九年度開講科目

・授業名、サブタイトル、担当者の順に記す。

・通年科目はA（春学期）・B（秋学期）に分かれるが、担当者が同一であり、かつ、サブタイトルが春秋通じて同一の場合、その区分は省略して記した。

・ただし、半期のみ授業については《春》《秋》と表記した。

・担当者および《春》《秋》の授業区分に付したカッコ内の数字は、それぞれⅠ部・Ⅱ部の区別を示す。カッコ内の数字が付されていないものは、Ⅰ部Ⅱ部隔年開講の科目か、Ⅰ部・Ⅱ部の担当者が同一であることを示す。

〈学部〉（五十音順）

東洋思想文化学科

アジアの古典《春》（インドの古典に触れる） 宮本 城

アジアの文学（新しい台湾の文学） 橋本恭子

イスラーム概論《秋》（イスラーム的なものの捉え方・考え方を知る） 柴山 滋

インド現代思想《春》（インド近・現代宗教思想家の生涯と思想） 宮本久義（Ⅱ）

インド古典思想概論A（ウパニシャッドの思想） 沼田一郎（Ⅰ）

インド古典思想概論B（ヴェーダの思想） 沼田一郎（Ⅰ）

インド古典思想概論A（ヴィシュヌ派の思想と展開） 三澤祐嗣（Ⅱ）

インド古典思想概論B（シヴァ派の思想と展開） 三澤祐嗣（Ⅱ）

インド思想史A B（インド思想と宗教の潮流を概観する） 橋本泰元（Ⅱ）

インド思想史A（インド思想と宗教の潮流を概観する） 宮本久義（Ⅰ）

インド思想史B（インドの叡智を探る） 宮本久義（Ⅰ）

インド思想特講ⅠA（道徳・財・愛欲のインド文化史） 沼田一郎

インド思想特講ⅠB・ⅡA（インドの歴史と文化） 石川 寛（Ⅱ）

インド思想特講ⅡB《秋》（古代インドの伝統的行法ヨーガと伝承医学アーユルヴェーダ） 宮本久義

インド思想特講ⅢA《春》（ヒンドゥー文化への文化人類学的アプローチ） 古賀万由里

インド思想特講ⅢB《秋》（インド神話を知る） 宮本 城

インド仏教史A（釈尊の覚りとその展開） 岩井昌悟

インド・仏教の美術A（仏教の仏と神々の図像学的考察） 山口しのぶ

インド・仏教の美術B（南アジアのヒンドゥー美術）

山口しのぶ

インド舞踊《秋》（インド舞踊・バラタナートイヤムの実技と

理論）

久保田幸代

インド文化概論A《春》（パンジャブ地方〜北インド世界の

悲恋民話の世界を読み語る）

村山和之

インド文化概論B《春》（文学を通して見るインド文化）

宮本 城

韓国語A B

佐藤 厚

韓国仏教史《秋》

漢文訓読法①《春》

川崎ミチコ（I）

漢文訓読法②《春》（漢文法の基礎知識）

坂井多穂子（I）

漢文訓読法《春》

川崎ミチコ（II）

基礎中国語A①《春》（異なる体系との出会い）多田 恵（I）

基礎中国語A②《春》（HSK2級の合格）吉田雅子（I）

基礎中国語A③《春》（中国語初心者のための授業）

橋本恭子（I）

基礎中国語B①《秋》（異なる体系への取り組みを進める）

多田 恵（I）

基礎中国語B②《秋》（HSK2級の合格）

吉田雅子（I）

基礎中国語B③《秋》（中国語初心者のための授業）

橋本恭子（I）

基礎中国語A B（初級中国語）

大江千晶（II）

キリスト教概論《春》（キリスト教の基礎的知識を身につける

ために、キリスト教誕生までの歴史と宗教思想的変遷を中心

に学んでゆく）

山中利美（I）

近代化と東洋《秋》（東洋は近代化をどのように受け止めたか

〈オムニバス形式〉

水谷香奈

現代に生きる仏教《秋》（人権の歴史をめぐる仏教者のかかわ

りに学び、現代社会の排除と包摂を考える）高瀬顕功（II）

現代のインド《秋》（インド近・現代の政治と社会）

宮本久義（I）

坐禅《春》（「いま」に気付く）

眞如晃人

サンスクリット語I A B（古典サンスクリット入門）岩井昌悟

サンスクリット語II A B（実践サンスクリット中級）渡辺章悟

写経《春》張堂興昭

宗教学I A（南アジアの伝統的宗教思想）沼田一郎（II）

宗教学I B（仏教の伝播と変容）沼田一郎（II）

宗教学II A（アジア宗教の思想と文化―仏教のアジア各地への

受容と変容）山口しのぶ（I）

宗教学II B（ヒンドゥー教の思想と文化―南アジア、東南アジ

アにおけるインド文化の受容と変容）山口しのぶ（I）

宗教学II A B（日本人と宗教の関わり、宗教と言語、道徳）

吉村 均（II）

宗教学概論A（多様な教理と実践の世界）

島田茂樹

宗教学概論B（華麗なる文化と芸術の世界）

島田茂樹

- 宗教社会学 A (「宗教」の社会性と個人性) 富澤かな
 宗教社会学 B (インドの社会と宗教とその理解) 富澤かな
 上級中国語 A B (中国語の作文) 阿部順子
 神道史 A (日本中世の仏教と神祇 (1)) 伊藤 聡
 神道史 B (日本中世の仏教と神祇 (2)) 伊藤 聡
 総合Ⅷ A B ① (日本の近代化と東洋大学―井上円了の哲学と実践―(オムニバス形式)) 渡辺章悟
 チベット語 A (古典チベット語文法) 石川美恵
 チベット語 B (『法華経 普門品』(観音経)を読む) 石川美恵
 チベット仏教史《春》 山口しのぶ
 中級中国語 A B (中国語のヒアリング能力を高める) 荒井 礼
 中国学概論 A (現代社会と中国優秀伝統文化) 白井 順
 中国学概論 B (中国文学を鑑賞する) 荒井 礼
 中国学研究法 A (中国哲学研究の基礎知識) 播本崇史
 中国学研究法 B (中国語の基礎知識を学ぶ) 坂井多穂子
 中国現代文学史 A B (中国二〇世紀文学の歩み) 徐 子怡
 中国語Ⅳ A B (中国語のヒアリング能力を高める) 荒井 礼 (I)
 中国語Ⅴ A B (中国語の作文) 阿部順子 (I)
 中国語Ⅵ A B (中国語中級者のための授業) 橋本恭子 (I)
 中国語Ⅶ A B (中級中国語) 権 慧 (I)
 中国語Ⅳ A (聴解の基礎) 多田 恵 (II)
 中国語Ⅳ B (スピーキングの基礎を培う聴解) 多田 恵 (II)
- 中国語学演習 A B (長文の中国語に慣れる) 吉田雅子
 中国史概説 A (中華世界の拡大と再生) 竹内洋介
 中国史概説 B (「華夷一家」への道) 竹内洋介
 中国哲学講読 A B ② (『天道溯源』講読) 中村 聡 (I)
 中国哲学講読 A B ① (朱熹『論語集注』学而・為政篇) 播本崇史 (II)
 中国哲学史 A B (中国に哲学はあるのか?) 中村 聡 (I)
 中国哲学史 A B (中国における「哲学」の姿) 坂本頼之 (II)
 中国哲学特講 I A B (『小学』読解) 白井 順
 中国哲学特講 II A B (儒家思想を巡る諸問題) 川田 健 (I)
 中国の美術 A (先史〜南北朝時代の中国美術) 萩原 哉 (I)
 中国の美術 B (隋唐〜明清時代の中国美術) 萩原 哉 (I)
 中国の美術 A B (中国の仏教・道教を中心とした宗教美術史) 田中知佐子 (II)
 中国仏教史 A (初伝期から南北朝まで) 伊吹 敦
 中国仏教史 B (隋代から現代まで) 伊吹 敦
 中国文化史 A B (中国思想文化―入門と手ほどき―) 播本崇史
 中国文学史 A B (宋代以降の文学の諸相) 野間信幸
 中国文学講読 A B ① (『敦煌文獻』を読む) 川崎ミチコ
 中国文学講読 A B ② (李白の詩を読む) 坂井多穂子
 中国文学特講 I A B (台湾の文学を読む) 野間信幸 (I)
 中国文学特講 I A B (中国近現代文学を読む) 近藤光雄 (II)

中国文学特講ⅡA②(宋代の文学作品を読む)詩を中心に)

坂井多穂子(Ⅰ)

中国文献学A B

川崎ミチコ

中国文字学A B

坂本頼之

哲学概説A(自分の頭で考えて、自分の言葉で伝えるということ)
と)

渡邊郁子(Ⅱ)

哲学概説B(自分の頭で考えて、主体的に行動するということ)

渡邊郁子(Ⅱ)

東西交渉文化史A(中央アジアの歴史(前編・古代・前近代))

秋山 徹

東西交渉文化史B(中央アジアの歴史(後編・近現代))

秋山 徹

東南アジア仏教史《春》(上座仏教における主要経典と基本的

仏教用語、仏教思想の把握、またスリランカ及び東南アジア

諸国における仏教文化の普及とその変遷過程の理解)

藪内聡子

東洋思想《秋》

白井 順

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ①A B(インド思想・哲学とインド文

化の研究) 澤 祐嗣(Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ②A B(ヒンドゥー教の思想・文化研

究Ⅰ) 橋本泰元(Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ③A B(インド大乘仏教の研究)

渡辺章悟(Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ④A B(初期仏教研究)岩井昌悟(Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ⑥A B(A文献の読解/B自由研究)

伊吹 敦(Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ⑦A B(アジアの芸術文化に関する英

語文献講読) 山口しのぶ(Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ①A B(中国の詩を中国語で読む)

野間信幸(Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅱ①A(笑話と伝奇を読む)坂井多穂子(Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅱ①B(伝奇小説を読む)坂井多穂子(Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅱ⑨A B(『国語』を読む)川田 建(Ⅰ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ①A B(インド大乘仏教の研究)

渡辺章悟(Ⅱ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ②A B(仏教思想の研究)

水谷香奈(Ⅱ)

東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ③A B(アジアの芸術文化に関する英

語文献講読) 山口しのぶ(Ⅱ)

東洋思想文化演習Ⅰ④A B(新詩を読む)近藤光雄(Ⅱ)

東洋思想文化演習Ⅱ④A B(『国語』を読む)川田 建(Ⅱ)

東洋芸術文化特講ⅠA《春》(インド映画論)宮本久義(Ⅰ)

東洋芸術文化特講ⅡA《春》(南アジアの音楽文化と宗教思想)

田森雅一(Ⅰ)

東洋芸術文化特講ⅡB《秋》(バリ島の芸能から人間の創造性

を学ぶ)

山本早良紗(Ⅱ)

東洋芸術文化特講ⅢA《春》(写本・絵図、石窟の壁画・造像に見る中国人の死後世界観について) 川崎ミチコ(Ⅰ)

東洋芸術文化特講ⅣA《秋》(仏伝図の絵解き) 岩井昌悟

東洋思想文化への誘いA B 岩井昌悟

東洋の身体論《春》(「こころとからだをどう見るか」〈オムニバス形式〉) 水谷香奈

日本漢学A B (日本では漢学を如何に学んで来たのか) 坂本頼之

日本仏教史A (日本仏教史(飛鳥時代)鎌倉時代) 水谷香奈(Ⅰ)

日本仏教史B (日本仏教史(鎌倉時代)現代) 水谷香奈(Ⅰ)

日本仏教史A (日本における仏教のあゆみと社会・文化) 仏教伝来から鎌倉仏教(前半)まで) 橘川智昭(Ⅱ)

日本仏教史B (日本における仏教のあゆみと社会・文化) 仏教(後半)から明治時代以後の仏教まで) 橘川智昭(Ⅱ)

比較宗教A (比較宗教を理解するための基礎知識) 岩井昌悟

比較宗教B (宗教間の接触や宗教間対話の問題) 松野智章

ヒンディー語A (ヒンディー語入門Ⅰ) 橋本泰元

ヒンディー語B (Introduction to Hindi 2) 橋本泰元

ヒンドゥー教概論A B (ヒンドゥー教の思想を学ぶ) 橋本泰元

仏教漢文A (仏教漢文の基礎) 伊吹 敦

仏教漢文B (経典注釈・浄土教文献を読む) 水谷香奈

仏教思想概論A (仏教とは何か) 渡辺章悟

仏教思想概論B (仏教の思想とその展開) 渡辺章悟

仏教思想特講ⅠA《春》(空の世界に何があるのか) 渡辺章悟(Ⅱ)

仏教思想特講ⅠB《春》(『華嚴経』の物語とその思想) 橘川智昭(Ⅰ)

仏教思想特講ⅡA《春》(禅思想の形成と社会との交渉) 伊吹 敦

仏教思想特講ⅡB《秋》(密教の思想) 金本拓士

仏教と社会福祉《秋》(「いのち」に向き合う仏教者の活動に学ぶ) 高瀬顕功(Ⅰ)

仏教の芸能《秋》(仏教伝統歌謡の基本を学び実修してみよう) 橋本泰元(Ⅱ)

〈オムニバス形式〉 ヨーガ《春》(実践をとおして思想を学ぶ) 番場裕之(Ⅱ)

レポート・論文制作の技法①《春》 岩井昌悟(Ⅰ)

レポート・論文制作の技法②《春》 橋本泰元(Ⅰ)

レポート・論文制作の技法③《春》 野間信幸(Ⅰ)

レポート・論文制作の技法④《春》 水谷香奈(Ⅰ)

レポート・論文制作の技法⑤《春》 伊吹 敦(Ⅰ)

レポート・論文制作の技法⑥《春》 川崎ミチコ(Ⅱ)

レポート・論文制作の技法⑦《春》 坂井多穂子(Ⅱ)

〈大学院〉

インド哲学仏教学専攻

博士前期課程

インド哲学研究Ⅰ A B・インド哲学研究指導Ⅱ A B

インド哲学研究Ⅱ A B・インド哲学研究指導Ⅲ A B

インド哲学研究Ⅲ A B

インド哲学研究Ⅳ A B・インド哲学研究指導Ⅰ A B

インド哲学仏教学特殊演習 A B

インド仏教研究Ⅰ A B・仏教学研究指導Ⅲ A B

インド仏教研究Ⅱ A B

インド仏教研究Ⅲ A B・仏教学研究指導Ⅰ A B

インド仏教研究Ⅳ A B・仏教学研究指導Ⅱ A B

インド仏教研究Ⅴ A B

東アジア仏教研究Ⅰ A B・仏教学研究指導Ⅳ A B

東アジア仏教研究Ⅱ A B

東アジア仏教研究Ⅲ A B

博士後期課程

インド哲学研究指導Ⅰ A B・インド哲学特殊研究Ⅰ A B

インド哲学研究指導Ⅱ A B・インド哲学特殊研究Ⅱ A B

インド哲学研究指導Ⅲ A B・インド哲学特殊研究Ⅲ A B

インド哲学研究指導Ⅳ A B・インド哲学特殊研究Ⅳ A B

インド哲学研究指導Ⅴ A B・インド哲学特殊研究Ⅴ A B

インド哲学研究指導Ⅵ A B・インド哲学特殊研究Ⅵ A B

仏教学研究指導Ⅰ A B・仏教学特殊研究Ⅰ A B

仏教学研究指導Ⅱ A B・仏教学特殊研究Ⅱ A B

仏教学研究指導Ⅲ A B・仏教学特殊研究Ⅲ A B

仏教学研究指導Ⅳ A B・仏教学特殊研究Ⅳ A B

仏教学研究指導Ⅴ A B・仏教学特殊研究Ⅴ A B

仏教学研究指導Ⅵ A B・仏教学特殊研究Ⅵ A B

中国哲学専攻

博士前期課程

中国哲学演習Ⅰ A B・中国哲学研究指導Ⅴ A B

中国哲学研究Ⅰ A B

中国哲学特論Ⅲ A B

中国哲学特論Ⅳ A B

中国文学特論Ⅰ A B・中国哲学研究指導Ⅱ A B

中国文学特論Ⅱ A B・中国哲学研究指導Ⅲ A B

中国文学特論Ⅲ A B

中国文学特論Ⅳ A B

中国語学研究Ⅰ A B

中国語学研究Ⅱ A B

中国語学研究Ⅲ A B

中国語学研究Ⅳ A B

中国語学研究Ⅴ A B

中国語学研究Ⅵ A B

中国語学研究Ⅶ A B

渡辺章悟

山口しのぶ

岩井昌悟

伊吹 敦

白井 順

小路口聡

中村 聡

市来津由彦

大野公賀

野間信幸

坂井多穂子

有澤晶子

加藤國安

野間信幸

橋本恭子

野間信幸

野間信幸

大野公賀

市来津由彦

小路口聡

宮本久義

橋本泰元

沼田一郎

二〇一九年度東洋思想文化学科卒業論文題目

〈Ⅰ部〉

秋和 千怜 現代に息づく武士道精神

新井 里奈 龍門二十品について——『長樂王丘穆陵亮夫人尉遲造像記』と『魏靈藏薛法紹造像記』における書

風を中心として——

荒生 えみり 日本社会の自己啓発書ムーブメント

荒木 まりの インド星占い——12宮を中心に——

安念 美菜子 バリの葬送儀礼とその特色——カーストによる葬儀の違い——

チベット仏画の色と材料

井澤 瑞貴 インドの教育

石山 桃茄 インド神話と動物観

稲葉 亜美 国体論と首相談話に見る日本の戦争の捉え方

犬塚 陸 李白の宴の酒

遠藤 克 「離魂」と「還魂」——唐代伝奇から明代戯曲まで

大井 健太郎 金剛力士の研究

大熊 駿平 初期と近年の比較による葬式仏教批判再考——釈尊の教えと葬式特化の正当性——

大滝 壘 インド更紗の世界普及とその変容——モチーフの

芸術性と精神性——

大西 美雨

小川 結喜 地蔵菩薩信仰に関する一考察
 小熊 有紀 唐代仕女における代表的な化粧とその流行
 小野 彩音 日本における肉食タブーの変遷
 小幡 智美 カースト制度のもとに成り立つインドとそこで生きる女性たち
 小原 早紀子 御朱印ブームの背景について
 加倉田 匠海 日本人に根付く武士道精神（新戸部稲造の『武士道』を中心に）
 笠井 琴音 カースト制度の変容——誤解されたカースト制度
 加治佐 耕平 林羅山について 江戸初期における羅山と朱子学
 加藤 怜 李清照の作品から読み取る彼女の人生―李清照にとつての幸せとは―
 河上 春菜 着物の歴史・模様と着こなし
 川口 裕太 ブッダの思想と輪廻思想の矛盾
 菊地 瑠伊 日本のサッカー教育と海外のサッカー教育を様々な角度から比較し日本のサッカー教育の成長の種を考える
 北原 日向子 「鎌鼬」について―中国の妖怪「窮奇」との関係―
 熊澤 文香 全真教と王重陽について
 小島 慎平 中華人民共和国の宗教変動
 小林 望 東洋文化でもある相撲の様々な歴史
 齊川 聖士 何故魯迅は大きな選択ができたのか

齊藤 澄みれ 『法華経』における蓮華の象徴性について
 齋藤 有華 インドにおける女性問題―インドの慣習と女性の地位向上について―
 サウエンスック プラウイナイ 八正道を中心とする相互関係
 櫻井 菜緒 イスファハーンを中心に考察するタイルの歴史
 佐々木 玲菜 麵と小麦の関係なぜ北インドには麵料理がないのか
 佐藤 瑛 張飛像の変遷
 佐藤 心之介 『日本陽明学派之哲学』から見た大塩中斎
 佐藤 達也 中国における庚申信仰の起源
 佐藤 夏希 近代日本陽明学者における死生観
 沢田 倫太郎 インドの貧困問題
 志塚 拓郎 シャンカラの不二元論と仏教の唯識論における思想比較
 品川 潤仁 なぜ始皇帝は不老不死を求めたのか
 芝谷 綾音 インドの教育を考える―学歴社会で起きる教育格差―
 嶋田 英莉 『西遊記』沙悟浄像の検証―正体とその役割を探る―
 鳥村 音穂 日本統治時代の朝鮮と日本の仏教
 清水 香菜 発展途上国の観光産業の実態―タイの伝統文化とその変遷を辿る―

清水 結 アンドロイド観音・テクノ法案・ドローン仏にみる
仏教芸術のエッセンス

下菊 彩 古代・中世から見るカースト制度と現代へのつながり

下菊 航 中国の国連PKO政策と主権と人権の狭間で

白谷 将吾 安東省庵からの教え

末綱 みゆ 『南柯太守傳』と『枕中記』における別世界の存在と夢が人に与える影響とは

鈴木 雄大 猫と宋代詩人

鈴木 友斗 熊野詣の伝播

鈴木 龍人 曹操の楽府詩にみえる人生観

平 竜太 「論語講義」は澁澤栄一の論語解釈なのか

高木 柚香 「立意」は「同じか？」『枕中記』と『南柯太守傳』

高島 雄斗 廃仏毀釈について考える

隆杉 真央 広島東洋カープが及ぼした経済的影響に関する文化的考察

高田 悠佳 日本統治時代の台湾で輝いた高校球児『KAN O——カノ——1931海の向こうの甲子園』の感動

高柳 早恵 仏教によるヴィナーヤカ受容と変容

瀧崎 翔也 インド人民党(BJP)・モディ政権長期化の理由を探る

田坂 彩佳 葬送儀礼の変容と死生観

立川 真衣 朱熹の『論語集注』における孔子像

辰野 拓也 日蓮の思想哲学と他宗派、幕府との関係

谷川 桃子 古代インド文化におけるインダス文明の要素について

種市 竜也 古代ヨーガから現代ヨガへの成り立ち

玉澤 光希 治世の能臣・乱世の奸雄——『三国志演義』における曹操像——

田松 敬彬 『呂氏春秋』孟夏紀からみる教師観

千々岩 玲奈 古代インドの女性観について——古代叙事詩『ラーマヤナ』を中心に——

張 茜茜 日本統治時代を生きる台湾の女性

戸畑 郁人 アジアという名の激戦区を代表する国へ——日本の教育のあり方——

鳥越 可菜 カースト制度とインド社会を生きる人々

中川 照蓮 『Suttapāṭha』は最古資料なのか——釈尊の呼称から考える經典成立史試論——

中田 珠生 馮夢竜と「白蛇伝」

中村 武 インドの近代思想

中村 寧々 魯冰花と映画の比較

長安 絃佳 インドの児童労働問題とその解決に向けて

中山 輝 ラーマ神話に見るヒンドゥー教の特徴

橋本 成平 刺青の魅力とタブー性

花鳥	瑞生	僵尸説話の変遷―生けるがごとき尸からキョンシーに至るまで―	虫賀	健人	『笑府』における嘲笑の価値
浜田	隆平	西欧文化と日本文化のSNSによる変容	矢口	千修	ガンダーラ美術からみる異文化の交渉
稗田	朱花	「不倫」のパラドックス―不邪淫戒は何を問題にしたいのか?―	山口	可怜	禅宗と禅宗寺院庭園の関係性について
日村	光希	剣道と剣術の思想の違いとこれからの剣道	山崎	柚香	ガンディーの生涯―彼に影響を与えた人物との出来事を中心に―
福山	宗琢	禅と茶の結びつき	山名	綾香	中国三代悪女・呂后・則天武后・西太后 悪女と呼ばれた彼女たちが生きた時代
藤巻	佑紀	『列女伝』からみる劉向の思い描く賢母像	横山	大輔	武士の生き方からビジネスの考えを学ぶ
古川	己利名	明治時代以降における児童文学の変遷とその背景―桃太郎を通して―	吉野	真仁	坐禅とヨーガにおける行為論と宗教性について
細谷	大貴	役行者観の成立、ならびにその過程における山林修行者の影響	渡邊	百合	神道における死後の世界
本田	有希	日本と中国の川の信仰 水と共にいきるには	山本	理人	何故、『戦国策』は伝えられたのか?
前田	恭介	初期仏教研究の成立および官学アカデミズムにおける発展	(Ⅱ部)		
松岡	菜乃佳	インドのカースト―不可触民―	飯島	織江	『莊子』における死の寓意に対する宋代林希逸の解釈
松山	愛梨	吉田松陰の教育思想と『孟子』―『講孟余話』を中心として―	石川	美月	座敷わらしは妖怪か否か
溝上	賢史郎	ふたつのウパニシャッドにおける「抽象概念に対する実体性付与」について	岩渕	聖也	インドネシアのイスラーム教育から見る信仰
宮原	瑚子	インドにおける女性観	柏本	智史	「般若経」と『中論』における業の問題について
宮本	和槻	日本統治期の台湾文学から読み取る台湾人の独自性―周金波に焦点を当てて―	川澄	久通	インドカーストの変容―植民地支配前と支配下―
			坂本	愛佳	魯迅の狂人日記における比喩表現
			佐藤	成	稲荷神と茶枳尼天の習合について
			下山	将平	宗教的思想と創作物の関連性―市川森一とウルトラシリーズ―

志良堂 萌恵 沖繩近代宗教史

関根 万菜 ジャワ・バリにおけるドゥルガー女神の変遷と信仰と演劇について

瀧澤 大地 日本統治期の台湾住民の感情と政治意識—黄凡の作品研究—

田中 康夫 貴族・皇族社会にみる密教の灌頂史

田辺 未佳 近代インドの社会、文化、人々の心と価値観の変化—インド映画「ムトゥ 踊るマハラジャ」と

戸塚 愛瑛里 「きつと、うまくいく」からよみとって
インドネシアの織物—ソングレットとイカットを中心に—

中村 加奈子 スコータイ朝の仏像研究—遊行仏・降魔印坐像を主として—

中山 螢 現代インドにおける「ジェンダー・パラドクス」
『古事記』と『日本書紀』における死後の世界像の比較

水間 康太 ヒンドウスターニー音楽の研究

深山 春菜 チャングナラヤン

村田 茂 宮沢賢治の作品に見られる東洋思想

八木 龍一 Saundaranandaにおける修道論の研究

山口 哲人 Saundaranandaにおける修道論の研究

山村 怜於奈 インドにおける教育問題の現状と課題

大学院インド哲学仏教学専攻修士論文

藤森 進 『カウティリヤ実利論』に引用されるアーチャーリヤたちの思考範囲と傾向

村田 啓輔 『法華経』「如来寿命品」における仏身観

村田 良子 *Pāṇḍiyajyogāsāstrivāraṇa*における *pāṇa* 概念—*Upadeśasūhṛī* 及び *Brahmasūtrabhāṣya* との比較を中心として

大学院中国哲学専攻修士論文

楊 若琳 張愛玲による上海像—張愛玲の創作活動と上海の關係性について—

劉 雨佳 『第七天』に見える余華の死生観—初期作品「現実一種」との比較から考察する